

赤池中「体育学習発表会」 笑顔と悔しさがにじみ出た白熱の勝負

赤池中は10月15日、保護者の参観を3年生の各家庭2人以内に限定した「体育学習発表会」を行いました。ブロック別に分かれ、全校生徒が白熱した競走のほか、練習を重ねた八の字大縄など約10種目を披露。快晴の空の下、仲間を信じ力を合わせ、競技に挑む生徒たちの姿に、惜しみない拍手が送られていました。



↑全員バトンを持ち、バトンを次の走者のバトンに当ててつなぐブロック対抗リレー。

↓地域住民3人がゲストティーチャーとして参加し、子どもたちの収穫を支援。



弁城小でサツマイモの収穫 思いやりの言葉かけ合ったイモ掘り体験

弁城小の1・2年生29人が、10月20日にイモ掘り体験を行いました。子どもたちは、カエルなどの畑の小さな生き物にも語りかけながら、互いに「優しく掘ってね」と声をかけ合い3箱分のイモを収穫。今年の収量は通常の半分以下でしたが、子どもたちは結果以上に大切な「思いやりの心」を学んでいました。

地域学校協働活動「伊方頑張りっこ教室」 地域全体で成長見守る放課後学習

伊方小の1・2年生89人を対象に、地域のボランティアが学習補助を行う「伊方がんばりっこ教室」が10月から始まりました。地域と学校が相互に連携・協働する「地域学校協働活動事業」の一環として2年前に開始。コロナ禍での再開を心待ちにしていた児童は意欲的に学習に取り組み、指導員も笑顔で応えていました。



↑週2回30分の学習では質問の手が止まらず、順番待ちになる活気ある教室。

↓筑豊地区の小・中学校でスクールカウンセラーとしても活躍する大西教授。



人権のまちづくり講座 子どもたちに寄り添う大切さ学ぶ

「子どもの睡眠不調とメディア依存」をテーマに、筑紫女学園大学の西大良さんを講師に迎えた講演会が、10月21日に地域交流センターで行われました。教師や教育関係者など約60人が参加し、睡眠不足やゲームなどのメディア依存が不登校に深く関わりを持つことを主張。実態調査なども交え、温かい支援の大切さを伝えました。

↓10日に同時開催された、平野亜衣さん・浦野さやかさんによる「おまかせコンサート」も大盛況。



平野アキ子「喜寿の作品展」 四季折々の山容に微笑んだ秋

平野アキ子さん(市場)が10月6日から6日間、上野焼陶芸館で四季の山旅スケッチをテーマとした「喜寿の作品展」を開催しました。趣味の山登りや福智町での日常で心に留まった風景を描いた計52点を展示。平野さんは、「77歳で個展を開けたのは、地域の支えがあってこそ」と感謝を口にし、「今後も地域の縁を紡ぐ取組に励みたい」と目を細めました。

全日本ジュニアテコンドー選手権大会 韓国発祥のテコンドーで全国三位に輝く

内村翼くん(金田義務3年)が、9月19日に出場した「全日本ジュニアテコンドー選手権大会(キョルギ/小3男子/-24kg級)」で三位の栄冠をつかみました。スパーリング競技のキョルギで、体の柔らかさを生かした足技を次々と決めて全国の強豪を圧倒した内村くん。夢の五輪出場を目指し、日々稽古に汗を流しています。



↑所属する内村道場(田川市)内の強化選手として、週5日稽古に励む内村くん。

↓お披露目初日の10月9日には、子どもたちが飾り山笠の前で祭り囃子を披露。



神崎二山笠愛好会が山笠展示 地域に元気を与えた二年ぶりの山笠披露

神崎二山笠愛好会が、10月9日から月末までの毎週土日に、神崎二教育集会所で飾り山笠の展示を行いました。二年連続の祭り中止に残念な思いをする子どもたちを励まそうと初めて実施。愛好会の浦田達也会長は「祭りを全員で存分に楽しめる日が早く戻ってきてほしい」と子どもたちに優しいまなざしを向けました。